

# 低学年児童期の学習

～保護者のみなさまへ～



## 第8回

子どもを勉強嫌いにさせない！



このコラムをお読みくださる保護者の皆様へ。あなたは子どもの頃、おとうさんやおかあさんに「勉強しなさい！」と言われた（叱られた）経験はおありですか？ 無論、これは子どもへの愛情や期待があるからこそその言葉ですが、あまりに言われると反発したくなるものです。さて、このような言葉かけは果たして有効なのでしょうか？

もうお察しのことと思いますが、**「勉強しなさい！」**の言葉は、親の意に反した結果になりがちです。それどころか、**子どもを勉強嫌いにするいちばんの原因**だと言われています。小学校入学時には、親もこの言葉を発することはありません。しかし、月日が流れ学校で勉強らしいことをやり始めると、徐々にこの言葉でわが子に勉強を促す保護者が増えていきます。それに呼応するかのように、2年生、3年生、4年生へと進級するにつれて**「勉強はイヤだ！」**「勉強したくない！」という子どもが目立つようになっていきます。実は、子どもが勉強嫌いになる理由の最たるものが**保護者による勉強の強要**なんですね。誰だって、無理強いされたことは好きになれないに決まっています。実に残念なことです。



本来、児童期半ばごろまでの子どもは、**勉強と遊びを区別しません**。おもしろそうなもの、知りたいと思うものに出合えば試してみようとして、算数の問題だって、「テストで自分の力を試される」、「親の期待に応えなければならない」と思わなければ楽しく取り組めるのです。そして、**手応えを感じたなら、いくらでもやりたくなる**のがこの年齢期の子どもです。勉強はイヤなもの、嫌いなものという観念が染みつくのは、大人（おもに親）から勉強を強制されるからなのですね。





低学年時の子どもに必要な親の関わりは、「これっておもしろそうだね」と好奇心を刺激し、必要に応じて一緒に考えたり調べたりすることです。お子さんが勉強を嫌がり始めているご家庭は、今からでも遅くありませんから対応を変えてみてはいかがでしょうか。「もう勉強を嫌がり始めている。今更わが子は変わるだろうか」と思っておられるかたはありますか？ だいじょうぶです。小学生までなら、親が変わればそれに応じて子どもも変わります。何ごとも親しだいの年齢だからこそ、親はわが子が期待に沿った成長を遂げるよう工夫して接する必要があるのだとお考えください。



## ～～ 勉強への前向きな姿勢を引き出す働きかけ ～～

① 子どもの  
団らんの時間に  
楽しい話題を  
いろいろと  
提供する。

まずは、毎日は無理でもできるだけ親子一緒に楽しい話題で盛り上がる時間を設けましょう。親との会話を通じて、子どもは「自分は大切に思われている」ということを実感することができます。このような時間を過ごすと、子どもに「親は自分に何を望んでいるか」を考える心のゆとりが生じます。「勉強をちゃんとしてよう！」という気持ちが少しずつ高まっていきます。



② 子どもが  
興味を示しそうな  
話題をいろいろと  
投げかける。

もし、テレビや本、図鑑などを一緒に見る時間が設けられたなら、「これ、おもしろそうだね。もっと詳しく調べてみようか」など、子どもの興味を引きそうな話題をもちかけ、一緒に調べてみるのもよいでしょう。子どもが乗ってきたら、そこからさらに調べを発展させていきましょう。親の知っている多様な知識をタイミングよく子どもに伝えてやると、子どもはますます「もっと知りたい!」と思うものです。宿題などを一緒にやるのもよいですね。ただし、無理に教えようとしたり、じれて叱ったりするのは逆効果。「あっ、よく気づいたね」など、子どものプライドをくすぐるようなフォローを心がけましょう。



③ 塾の家庭学習が  
軌道に乗るまでは、  
親と一緒に  
机に着いて  
サポートする。

先々高いレベルで学力を身につけるにあたっては、学習の自立を果たすことが大前提となりますが、小学校低学年の子どもに「自分でやりなさい」といっても不可能です。そこで現段階で配慮しておきたいのは、勉強を習慣づけること、勉強の手順を身につけることなどです。これらがまだ不十分なら、「いつ、何に取り組むか」を親子で話し合い、当面は親子一緒に勉強するスタイルで学習メニューをこなしていくとよいでしょう。ただし、教えてやらせるのではなく、子どもが自分でやれるようになるための助走を手伝うのだという意識を忘れないようにしたいですね。



④ 子どもはリビングや食卓で勉強し、親はその時間に読書をする。

家庭内が勉強にふさわしい雰囲気になるようにすることも大切です。たとえば、勉強する場所はリビングと決め、その時間は勉強に差し障りのある音がなるべく生じないように気を配りたいですね。子どもは親が見守ってくれていると嬉しいものです。気持ちよく宿題に



取り組めます。もしも可能なら、同じ時間帯に親は読書などいかがでしょうか。一緒によいことをしているという気持ちが、勉強の取り組みを前向きにしてくれるでしょう。



つたない例でしたが、どういう働きかけが子どもの勉強によいかを考えるうえで参考になったでしょうか。児童期までの学びの生活は、のちの人生の歩みに少なからぬ影響を及ぼします。勉強自体は楽しいばかりではありませんが、やり遂げたあとの気持ちよさを繰り返し味わうプロセスが、やがて高度な勉強に取り組むときに生きてきます。そのためにも、子どもの勉強の見守りや応援のスタンスがどうあるべきかを親は考え、適切な対応をする必要があるでしょう。

